

1. ロゴマークお披露目（除幕式）

「オーガニックシティきさらづ」をPRするために作成したロゴマークのお披露目。

【登壇者】

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 会長 渡辺 芳邦（木更津市長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 前野 一夫

（独立行政法人国立高等専門学校機構 木更津工業高等専門学校 校長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 大橋 荒太

（株式会社ジェイコム千葉 木更津局 局長）

【市長発言要旨】

本市は、東京湾アクアラインや圏央道の整備進展、大型商業施設等の集積により、定住・交流人口が増加するなど、まちの活力が高まっています。

一方で、少子高齢化の進行をはじめ、近い将来に予測される人口減少や、経済成長の鈍化など、持続可能なまちづくりへの転換が求められています。

今後、地域の強みを活かし、まちの魅力を高め、次の世代に責任を持って引き継いでいくためには、地域一体となってまちづくりをしていくことが重要です。

本市では、市民・団体・企業等の力を結集するための旗印として、「オーガニック」を位置付け、本市を持続可能なまちとして、次世代に継承していくことを目指しています。

今回、未来につながるまちを目指す「オーガニックシティきさらづ」のロゴマークを作成しました。

このロゴマークは、「オーガニックシティきさらづ」をみんなで育てていくことを表現するため、無限の弧を描く若葉をモチーフとしています。

これから成長する若葉は、まちやそこに住む人を表し、無限の弧は、常に変わっていく状況に順応するポジティブで自立した状態を表しています。

また、イメージカラーの緑は、自然環境に配慮した事業活動や暮らし方など、自然と共に発展するまちを象徴し、オレンジは多様なあり方を認め合い、支え合う市民の心の温かさや、まちをより良くしていこうと行動する市民の熱意を表現しています。

このロゴマークの使用方法等は、追ってお知らせしますが、このロゴマークを地域一体となって進めるまちづくりのシンボルとして、広く市内外にPRしていきたく思いますので、皆様にもぜひ活用していただきたいと思います。



ロゴマークお披露目に伴い、5月22日（月）から木更津市役所朝日庁舎2階エスカレーター脇のガラスにロゴマークを貼付し、来庁する市民等にPRしています。



また、今後、木更津駅にあるデジタルサイネージでもPRを行います。このデジタルサイネージには、木更津市立木更津第二小学校の児童の協力により、「オーガニックシティきさらぎ」の音声流れます。

2. トークセッション1 テーマ「循環」

木更津市が実施している「地域野菜を食べて循環・学校給食プロジェクト」について、トークセッションが行われた。

【登壇者】

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 会長 渡辺 芳邦（木更津市長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 前野 一夫

（独立行政法人国立高等専門学校機構 木更津工業高等専門学校 校長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 大橋 荒太

（株式会社ジェイコム千葉 木更津局 局長）

【市長発言要旨】

木更津市立鎌足小学校及び鎌足中学校では、地元の農家の方々のご協力のもと、鎌足やその周辺で採れた有機野菜等を使用するとともに、給食で出た調理くずや食べ残しを学校施設内の生ごみ処理機で肥料にするという「循環」の取り組みを進めています。

本プロジェクトは、地域の食を知ること、環境に配慮することを児童・生徒たちの食育として推進するとともに、地域で生産されたものを地域で消費することによる循環型の地域経済を構築していくことを目的として実施しています。

【前野校長発言要旨】

今の学校給食の目的は栄養不足の解消ではなく、生活習慣病予防など健康管理や地域の食を知ることへ変化しています。

地域の食材は何か、また、材料・加工法・流通などを調べることも食育と言え、子どもへの健康投資こそが「オーガニック」だと思います。

そして、地域で作られた食物を食べ、残渣を堆肥化し、農家への還元という「循環」そのものを知ることが食育なのではないでしょうか。

【大橋局長発言要旨】

とても共感できる素晴らしい取り組みですので、ぜひ地産地消のグルメ番組や食の循環での地域活性化を紹介できる番組など、行政やまちの皆様と一緒に作れた面白いと思います。

今、この特番収録も「オーガニックシティきさらづ」の考えを多くの方々に知っていただきたく、行政、イオンさん、木更津東高校さんの協力などを得て、「みんなでつくろう！」の意識で制作しています。

もちろんこの会場でご覧いただいている皆さんも一緒に「オーガニックシティきさらづ」を創っていると言えると思います。

3. トークセッション テーマ「共生」

木更津市が実施している「広げよう地域主体のまちづくりプロジェクト」について、トークセッションが行われた。

【登壇者】

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 会長 渡辺 芳邦（木更津市長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 前野 一夫

（独立行政法人国立高等専門学校機構 木更津工業高等専門学校 校長）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 委員 大橋 荒太

（株式会社ジェイコム千葉 木更津局 局長）

【市長発言要旨】

核家族化や近所づきあいの減少、また、物騒な事件も増えてきている世の中ですが、市民の皆様が安心して暮らせるまちにしていくため、地域のことを良く知る地域住民が主体となって、防災や防犯、福祉、子育てなどの様々な地域課題を話し合い、解決に向けて、取り組むことのできる仕組みづくりとして、地区まちづくり協議会設立を促進しています。

市は、協議会への補助金や若手職員を各地域に派遣するなど、主体的な地域づくりを進める協議会への支援を行っています。

この地区まちづくり協議会を設置している地区は、昨年度末7地区ですが、今後、市内全地区へ広げていきたいと考えています。

嬉しいことに、本市では、子育て世代の移住者が増えてきていますが、そういった方々が安心して子育てできる環境を地域で作っていくことにより、皆様が暮らしやすいまちにしていきたいと思います。

【前野校長発言要旨】

次世代を担う多くの若い家族が、この木更津での定住促進につながり、歴史や文化の継承、そして、地域のつながりも広がります。

つながりができることで、みんなでまちづくりをする、言葉にすると当たり前のことですが、とても大切なことだと思います。

【大橋局長発言要旨】

J：COMきさらづでは、昨年9月30日、木更津、君津、富津警察署と「安心・安全で住みよいまちづくりに関する協定書」を締結しました。

この締結により、木更津、君津、富津警察署は、J：COMきさらづに特殊詐欺や車上荒らしなどの発生、および検挙情報などの防犯情報、交通事故の発生件数などの交通安全に関する情報などを提供します。

また、この情報をコミュニティチャンネルで放送し、番組視聴者への注意喚起、各種防犯情報について定期的な周知を図るほか、接客の際、防犯情報などの啓発チラシをお客様へ配布し、防犯を広くPRしています。

このような活動により、防犯の啓発や犯罪防止の効果を高め、地域の安全・安心なまちづくりに貢献し、地域の皆様の防犯意識向上を図っています。



4. トークセッション テーマ「自立」

木更津市が実施している「頑張る市民を応援しようプロジェクト」について、トークセッションが行われた。

【登壇者】

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 会長 渡辺 芳邦（木更津市長）
勝手に木更津応援団 マネージャー 阿曾 祐佳
日鉄住金環境株式会社 営業企画部 マネージャー 若鍋 聡志

【市長発言要旨】

本市では、自分たちの想いや暮らしなどをより良くしようと自主的に公益活動や事業活動に取り組む市民等がたくさんいます。

市では、「オーガニック」を持続可能な未来を創るため、「地域・社会・環境等に配慮し、主体的な行動をしようとする考え方」と定義しましたが、「オーガニック」とは、例えば、「地域住民の交流を増やしたい」、「木更津をきれいなまちにしたい」、「木更津をもっと活性化したい」など、現状を良くしていこうと取り組む市民の考え方、そのものだと思います。

本日お越しの阿曾さん、若鍋さんもそれぞれの想いを実現しようとする方々です。

本市では、このような頑張る市民の皆様を応援するため、ネットワークづくりや人材育成、また、財政的な支援などを行っており、活気があり、皆がいきがいをもって暮らせるまちづくりを行っています。

【阿曾氏発言要旨】

昨年の木更津あかり祭り～夜灯～では、幸せを祈る気持ちを一つにしたいと、市内の子ども達の手作り和紙灯籠が5, 000個灯りました。

また、本棚に眠ってしまった絵本を集めて市内でリユースの輪をつくりたい、そんな想いから始まった「絵本回収プロジェクト」があります。

回収ポストを作成し、市内の幼稚園や保育園を中心に設置しており、集められた絵本は市内の子育て支援関係施設への寄付のほか、イベント等で新たに活用されています。

【若鍋氏発言要旨】

毎週日曜日の朝9時から、木更津の港を中心に清掃活動を行っています。

釣りや潮干狩りなどの観光で来られる方々にも木更津の海が汚いと思われないように、自分たちの力できれいにしたいと活動を始めましたが、想像以上に生活ゴミも多く、木更津の皆さんと一緒に清掃活動を行いたいと考えています。

それは、多くの手で、たくさんの清掃をしたい、そして、自ら体験することにより意識が変わり、きれいなまちづくりがみんなで継続・継承される、そんな思いがあります。

毎週、J : COMさんも参加されてますし、市長も個人的に参加されることもあります。
どんどんこの輪を大きくして、みんなでまちづくりをしていきたいと考えています。

